

「障害者の生涯学習活動を支える人材に関するアンケート」結果概要①  
 —障害者の生涯学習推進を担う人材の専門性、具体的な役割等の観点から、  
 注目される回答結果について—

以下の設問回答から抜粋。

2(4) 事業推進者やコーディネーター、ボランティアなどとして関わった人々には、実践研究事業を通じて、どのような気づきや認識の変化があったと思われますか。その要因も含めて具体的なエピソードなどを教えてください。

- ・(社会教育主事が) 特に当事者の声を大切にするという認識を深めた。【団体1】
- ・(市町村の生涯学習担当課は)、実際に講座等で受け入れる場合には、どのような支援が必要なのか具体的なことを知りたいという声があった。【団体2】
- ・健常者や地域の人々等、多様な人との交流の場の提供や可能性を追求する学習メニューの実践による自己実現の活動が、参加者ののびしろを増やし、地域社会への合流を促す要因となるようだ、との気づきが全支援者に生じた。【団体4】
- ・福祉サイドと教育サイドの法律や慣例、方針の違いが顕著になった。【団体4】
- ・今まで障害者と地域の人々とのかかわり行動が少なかったことが要因で、このような「良かれ」と思って行動したもの、想いと結果がちぐはぐな状況をもたらすという大きな誤差が生じ、結果的に信頼関係構築を阻む危険性を秘めているとの認識を持った。【団体4】
- ・教育・福祉・地域相互の立場を理解したうえでのコーディネータ的な役割を果たせる教育に長けた人材が必要不可欠。【団体4】
- ・活動を通して障害の理解や地域活性化を実現していくためには、単独の自主カフェ活動だけでなく地域の様々なイベント等に積極的に参加して必要性を学び、公民館活動、文化祭、市役所の市長・部長予算折衝前のコーヒー提供まで参加した。【団体5】
- ・学びは学校まで後は、社会で働くと考えていた方が、(中略) 取り組みに接して、学ぶことで人は成長することを、認識してくれたこと。【団体8】
- ・ダンスワークショップの講師(アーティスト)から、最初は障害のある人との距離感やコミュニケーションが中々うまく取れなかったが、回を重ねることで、一人ひとりの個性や特性がわかり、理解することで「障害者」ということではなく、「共に表現活動をする人」として接することで、自身の抱えていた課題(距離感、コミュニケーション)を解決できた。また、アーティスト個人としても、活動の場を広げていくことができた。【団体9】
- ・参加者の可能性に気づかされたことも多く、できないからではなく、機会がないのだと感じた。【団体10】
- ・事業推進者が研究事業を通じてボランティア経験をしたことで、自らが支援者として活動する意義を感じるようになった。
- ・当事者コーディネーターが、自ら受けて来た支援の意味をよく理解したこと、逆に健常者

のコーディネーターでは気がつかないことを気づいて教えてくれた。【団体16】

・多くの学生が関与したが、多くが知的障害者と懇意になった経験自体が初めてであり、学びの様態は多様であった。知的障害者の学習に向かう態度が、学生のそれとは異なることから考察を深めた学生もいた。また、ボランティア経験者の中には、知的障害者を含むコミュニティへの参加度が目に見えて深まった学生もいた。【団体17】

・メンター学生の感想から。「このプログラムのおかげで私自身も変わっていった。初めの頃はどうしても障害者であるということが念頭にあったが、プログラムが終わる頃には障害特性等を意識することなく普段通りの私で接するようになっていた。知的障害者との関わり方がわからず話しかけられなかった頃の私とは大違いである。」「言葉がけの仕方を意識するようになった。普段自分がいかに曖昧な日本語を使っているのか、伝わりにくい表現をしているのかということに気づかされた。」「わたしはわたしの思いをありのままに伝えればいいのか」とまた思えるようになった。生き急いでいた人生を一度立ち止まることができた。」一緒に授業を受けた一般学生の感想から。「相手のどの部分に対して配慮すればいいのかということに対して理解が深まったことにより、安心して会話ができるようになったことがとても大きかったように思います。」【団体17】

・訪問後のスタッフの話では、「発語はなくても、意外と何を考えているか、好きか嫌いか、もっとやりたいかどうかといった情報が伝わってきた」といった発言があり、実際に接することで重症心身障害者や、重症心身障害者の生涯学習について肯定的な気づきがあったようであった。【団体18】

・ピアサポーター：「受講者の仲間と一緒に成長できた。」「自分自身がまだリカバリーし、成長できると気づけた。」「障害はその人の一部であって全部ではないと改めて感じた。」ボランティア（学生）：「障害があってもなくても、同じような悩みや似たような体験を抱えていることに気づけた。」【団体19】

・コーディネーターが何もかも道筋を付けるのではなく、障害のある人たちとの何気ない会話の中で、みなさんの願いをもとに思いもよらなかった企画が生まれ、障害のある人たちが頼りになる存在であることを痛感する。また、ひとりの願いややりたいことをみんなで経験することで、みんなの“生きる”がふくらんでいくことを実感できる。【団体22】

・（講師より）さらに嬉しかったのは、メンバーのひとりが助手をしてくれたこと。何気なく声を掛けたら快く引き受けてくれた。助手というより、もうひとりの講師となってくれた。正直、この場所に集まっている人たちのことについて私はあまり知らなかったもので、当日が少し不安だったが、彼はベテランの先輩。メンバーの事をよく知っていて、話をしたり盛り上げたりすることが上手で、とても頼もしかった。【団体22】

・私には最近つくづく「障害者」という概念が分からなくなっている。もちろんハンディというものは分かるが、障害者として認定されていなくても、誰もそれぞれ苦手な事や得意な事があり完璧な人なんていない。それ自体を嘆くより、苦手とどう付き合うか、周りの人とどう共有して支えあうかということが必要なのかなあと。このたまり場は、今生きている

人みんなに必要なのかな、と感じている。【団体22】

・単に人と人という関係でかかわるという至極当たり前のことなのですが、「専門家」という立場を超える（ないことにする）というかわりには、大人・先生・親・上司・健常者など、明らかに立場的に上位である（と思いきまされている）立場に自分がいると意識した時、とたんに難しくなります。でも、そうした上下が明確な立場の中で小さく生きることを余儀なくされてきた彼らを前に、こうした立場を超えたかわりとはとても必要なものと考えています。【団体24】

・「健常者」と言われる人たちも、わからないことやできないことがたくさんあり、失敗もすれば間違ふこともあるという事実を、私が自分の姿をもって見せること。わからない、できないときは、だれかといっしょに考えてみよう。そうやって何度だってチャレンジしていけばいいよね、みんな同じだよと、メッセージを送っています。彼らとの間に色濃く引かれていた線は徐々に薄くなってきているのではないかと思います。【団体24】

・場を創るとき、「なんでもいいから、とにかくやりたいことをやってみよう。（やりたくないことはやらなくてもいいよ。）」という、とてもゆるい活動方針にしました。そして、基本はなんでも話し合いから始まります。「うまく」とか「ちゃんと」とかに慣れ過ぎた他者の評価で善し悪しをはかれるということなく、自分にとって意味のある、自分のための、自分にしかできない活動ができる場所であるために、このゆるさはとても大切であると感じています。【団体24】

・「自分のとくいや好きなことをいかした企画」をいくつか実施した時、企画メンバー（障害のある当事者）は自分が「先生」と呼ばれることに対してとても嬉しそうな表情を見せ、とても張り切る姿を見せました。これまでの多くの場面で「先生から教えられる」立場にしかなかった彼らですが、「先生になって教える」という立場になれるということが、こんなにも彼らの心を動かすのかと驚きました。イベントが終わった後で、「学校の先生は嫌いだけど、先生になることは好き」というメンバーの言葉が心に残っています。【団体24】

・さらにこれらの企画に参加した当事者から「わたしも自分でイベントを企画してやってみたいな〜」という声が聞かれるようになりました。企画者としては、「また参加したい」と言ってもらえるだけで成功と言えるわけなのですが、さらに参加者から「自分もなにか企画してみたい」という思いを引き出したということは、成功をはるかに超えた大成功と言えるのではないかと思います。【団体24】

・自分たちの基地（拠点）があり、日常レベルで「かかわる」という機会があることは、「学び」に大きな変化をもたらすと感じています。仕事をしている人は帰りがけに寄ったり、遠方の人は休日に、ゆっくりのんびり体を休めたり、気の合う仲間でゲームをしたり、お菓子を食べてながら他愛ない会話をしたり。一見「学び」とは関係のないように見える何てことのないような時間なのですが、こうした時間が持てるようになったことで、これまで「学習会の仲間」だった関係性に明らかな変化が見られています。これまでと違い、特別感のない日常的なかかわりができたことで、何気ない会話からも「学び」を得ることができるよう

うになりました。そこから「自分たちだけでどこかにお出かけしてみよう」なんて話にも繋がっていくこともあって、外の世界に活動が広がっていているとも感じます。【団体24】

・精神障害のあるスタッフがコーディネーターとして加わり、当事者目線で配慮してくれるため、参加している当事者に寄り添った運営ができてきている。【団体26】

・学習プログラムに共に参加した福祉事業所の職員は、「高等部の勉強は仕事の練習ばかりで嫌いだった。生涯学習セミナーはとても楽しい勉強だった」という利用者の声を紹介し、彼らが回を重ねるたびに意欲的になり、次に学びたいことを自ら発言するような普段気づかなかつた一面を知ること、こうした経験の積み重ねが働くことを目指している利用者の働き続けるための力に繋がるとても有意義なものだと捉えるようになったということをお話してくれた。【団体27】

・学習プログラムに参加したある学生は「大学の実習やサークル活動で出会う障害児・者との関りでは(自分が)支援者の立場から離れることはなかつたが、この学習プログラムではいつの間にか普通に一緒に取り組んでいる仲間のような感覚で障害青年に向き合っていた」という感想を言ってくれた。【団体27】

⇒以上から、支援者（事業推進者、コーディネーター等）の「専門性」や役割に関して重要と思われる視点やその意義・効果を以下に整理できるのではないかと。

① 当事者の声を活かす、当事者が運営や支援の立場に関わる（ピア、参画）視点

→当事者の意欲や主体性、学習効果を高める

② 支援者も共に学ぶ当事者としての視点

→支援者自身の視点や力量、立場性に関する省察を促す

③ 多様な参加者による交流・関係形成が可能なプログラムづくりの視点

→学生をはじめとしたボランティアなどが当事者と出会い、関係をつくるプロセスから、共生社会構築に向けた学びへ展開する

④ 非定型的な要素が大きいプログラムや場（拠点）づくりの視点

→当事者同士、当事者と支援者の関係性の変化を促す、支援者が当事者のニーズや課題を深く理解する

⑤ 福祉と教育、学校教育と社会教育、行政と地域、それぞれの分野や立場を理解しながら、人・組織・事業等を媒介する視点

→立場、専門性、視点などの違いにより生じる、連携や協働の困難や相互理解の葛藤を乗り越える

以下の設問の回答から抜粋。

2 (5)実践研究事業の成果を生み出すために、事業推進者やコーディネーター、ボランティアなどのその他の支援者が担った役割で、もっとも重要なことは何ですか。その理由も含めて具体的に教えてください。

事業推進者の役割	コーディネーターの役割	その他の支援者の役割
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習（社会教育）、特別支援教育、障害福祉の各分野に精通した人が適任と考える。本事業は、生涯学習担当課単独で実施できる事業ではないため、<u>各分野の関係者と連携・協働が必須</u>と考える。【団体2】</li> <li>・<u>障害者福祉団体、支援学校等との密な連携</u>。【団体3】</li> <li>・「否定をしない、拒絶をしない、傾聴する、あるがままを認める」ことを、これまで障害者とかかわりのなかった大半の市民に理解できるように、<u>社会教育の推進施策として</u>行政に取り組みせるように提言することが肝要である。【団体4】</li> <li>・障害者の生涯学習は、福祉制度の隙間を補完する大切な役割を担うと認識している。そのため、<u>熟議のもとで事業のグランドデザインを掲げ、全支援者に対しグランドデザインが共有</u>できるよう尽力する必要がある。【団体4】</li> <li>・<u>活動先、団体等との交渉・連絡調整役の存在</u>。【団体5】</li> <li>・<u>障害のある人が共に参加できる環境の創出</u>。「場づくり」「人材育成」「ネットワークの構築」【団体9】</li> <li>・<u>県の目指す目標に向けて、各機関と連携し、情報を共有</u>すること。</li> <li>・PDC Aサイクルで事業を見つめることで、効果的なプログラムや継続的な学びが進められるよう考える。【団体11】</li> <li>・<u>事業全体を把握し進行管理を行うことで、個別事業と事業全体の中に結びつけること</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>地域の障害福祉の現状等について理解</u>している方が、その地域に配置されることが望ましいと考える。【団体2】</li> <li>・<u>事業推進者と障害者、地域社会と障害者を繋げるネットワークやノウハウを事業に生かす</u>。【団体3】</li> <li>・<u>事業全体へのアドバイス。連携会議のまとめ役として、会議を進行</u>。各関係者や関係団体とのコーディネート。【団体7】</li> <li>・<u>障害のある人の個性や特性を理解し、受容して、誰もが参加できる事業を進めていく</u>こと。【団体9】</li> <li>・<u>障がい者にかかわる様々な関係者をつながりを作っておくことで、生涯学習の視点で関与してもらうことができる</u>。【団体13】</li> <li>・<u>学習者や家族との関係構築、意思疎通、合理的配慮と</u>そのための対話、プログラムの運営、協力教員との意思疎通、メディア戦略、広報活動【団体17】</li> <li>・<u>事業の広報・連絡調整（障害者本人及び関係者への事業の周知、受講者のサポート等）</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>ボランティアについては、社会福祉協議会の登録ボランティア、高校生ボランティア、民生委員等を活用</u>した。今後は、<u>県障害福祉課の事業である「障害者サポーター養成講座」の修了者の活用も積極的に考えていきたい</u>。【団体2】</li> <li>・<u>障害者とコミュニケーションを取りながら、共に事業に参加すること</u>。【団体3】</li> <li>・<u>障がい当事者との十分な信頼関係を築いておくことで、円滑な学習支援ができる</u>。【団体13】</li> <li>・<u>オンライン対応の支援の仕方を学びながら支援をしてくれた</u>。【団体16】</li> <li>・<u>学習者との関係形成、学習者間の関係形成支援、学習者全員が参加できるようにするための配慮</u>【団体17】</li> <li>・<u>リカバリーの一モデル提示（立派なモデルである必要はなく、情けないモデルが重要）、グルー</u></li> </ul>

<p>ができる。【団体13】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市報やチラシ作成, 市ホームページへのお知らせ掲載など<b>広報活動</b></li> <li>・他機関連携する際の橋渡し, 関連部署とのコーディネートする役割【団体14】</li> <li>・当事者コーディネーターが, 自ら受けて来た支援の意味をよく理解したこと, 逆に健常者のコーディネーターでは気がつかないことを気づいて教えてくれた。【団体16】</li> <li>・<u>コーディネーターの人选</u>, 職務内容のコーディネート, メンター学生の雇用, 協力教員のリクルート, <u>プログラム全体のデザインと構想の明確化</u>, 大学事務や執行部への説明・交渉, 行政との連携【団体17】</li> <li>・事業の総括 (プログラム立案, ピアサポーターとの打合せ, 予算・決算等)【団体19】</li> <li>・<u>予算・運営の状況を常に把握</u>して, 全体を統括する。<u>複数人が役割分担</u>できると良い (適切な人的資源が必要)【団体20】</li> <li>・障害当事者の「ために」事業をするのではなく、「ともに」事業をつくりたいと<b>思っている</b>こと。【団体21】</li> <li>・必要な助言と客観的な評価ができること。【団体21】</li> <li>・学びの主体である<b>当事者と「ともに創る」という視点</b>を持つこと【団体24】</li> <li>・自分たちだけで抱えこまずに他団体と連携し, 依存していくこと【団体24】</li> <li>・おもしろがって活動に取り組むこと【団体24】</li> <li>・障がい当事者自らが<b>学びの場のつくり手</b>になれる仕掛けをつくること【団体24】</li> <li>・障害者の生涯学習に関する意義や目的をもって事業に取り組むこと。【団体28】</li> <li>・<u>取組過程で当事者の声やニーズを把握</u>したことを活かした事業運営や企画に取り組</li> </ul>	<p>【団体19】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラム実践の<b>最重要キーパーソン</b>, プログラムの開発, 大学との連携・調整役。</li> <li>【団体20】</li> <li>・<u>自分も学ぶ一人であること</u>を自覚し, 実践していること。自らも学びの当事者であること。【団体21】</li> <li>・障害がある人の悩みや生きづらさなどの<b>様々な気持ちを汲み取りながら</b>, その人の夢や願いを一緒に実現していく。【団体22】</li> <li>・共生社会を目指し, 地域の人と障害のある人とを繋ぐ。【団体22】</li> <li>・自分達の活動を<b>たくさんの人に発信</b>していく。【団体22】</li> <li>・地域の生涯学習を進める人・キーパーソンをどう発掘するか, 常にアンテナを張り, つなげる。【団体22】</li> <li>・<u>コミュニケーション力, 人間力のある人</u>。</li> </ul> <p>参加者と顔の見える, 信頼できる関係性をきづくことが, 本人の学びの余裕をうむ。【団体26】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この分野の専門性を広く有すること。<b>的確な現状分析と事業の方向性を指し示す発信力</b>を発揮して, <b>多方面の立場の異なる人たちと明確な目的を共有し, 連携を具体化させ</b></li> </ul>	<p>プワークの進行, 受講者のサポート等【団体19】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアスタッフは<b>参加者と同じ目線</b>で日常生活や仕事の話をしたり, 講座と一緒に参加するなど, 寄り添いながら楽しみや喜びを共有できる存在。【団体22】</li> <li>・講師は<b>一方的に教えるという立場ではなく</b>, 一緒に講座を作り, 楽しむとともに学び合う存在。【団体22】</li> <li>・支援者として参加すること<b>それ自体が多様性を認め合うこれからの共生社会の実現に直結した取り組み</b>であることの認識。【団体27】</li> <li>・障害の有無に関わらず, <b>共に学び共に生きることを具体的な体験を通して考え, 具体化</b>させること。【団体27】</li> <li>・<u>学習者のためらいに気づき</u>, 学習への抵抗感を減らす。【団体29】</li> <li>・コーディネーターの実践が楽しく, 安全に実施できるように進むように参加する。【団体30】</li> <li>・障がいのある本人が楽しく, そして<b>自分自身も</b></li> </ul>
---	--	---

<p>むことができる。【団体28】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで「障害者福祉」「特別支援教育」の分野で活動していない方々により多く関わってもらうための声かけが重要。【団体29】</li> <li>・タイムスケジュール設定と、関係者との連絡調整【団体30】</li> <li>・かかわる方が気持ちよく、参加できるように配慮する。【団体30】</li> <li>・安全・安心に実践できる環境づくり【団体30】</li> <li>・経費管理、備品準備【団体30】</li> <li>・暫定的であれ現状から描く「ビジョン」があり、推進者中心としてその周辺のチームがそのビジョンを共有していること【団体31】</li> <li>・教育と福祉をはじめとする領域に関する基本的な知識を持ち、<u>各領域とコミュニケーションがとれること</u>新しいビジョンを示し、立脚した領域を意識しながら、的確に説明する能力も必要であり、その説明を信頼してもらうためのバックグラウンドも重要である。【団体31】</li> </ul>	<p>ること。【団体27】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者の立場に寄り添うと同時に、支援者の立場も理解し可能な限り最善の効果を創出する<u>中核的存在</u>となること。【団体27】</li> <li>・<u>関係者の思いをあらかじめ丁寧にヒアリング</u>しておくことが必要。【団体29】</li> <li>・学習そのものを求めているのか、人間関係づくりを求めているのか、ニーズの違いによって学習形態も異なる。【団体29】</li> <li>・実践の目的の設定や実践プログラムの設定【団体30】</li> <li>・<u>実践成果の分析・考察</u>【団体30】</li> <li>・事業推進者と同様であるが、より現場とのコミュニケーションを行うという点で、<u>各方面の立場を理解した上で調整能力</u>も求められる。【団体31】</li> </ul>	<p><u>楽しく参加する</u>。【団体30】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>常に当事者の声に敏感であること</u>【団体31】</li> <li>・課題に対してコミュニケーションにより解決していくこと【団体31】</li> </ul>
--	--	---

### 各支援者の役割等の整理

#### ○事業推進者の役割（組織における事業推進担当者を想定）

事業の総括、グランド（計画）デザインの構想と共有、各分野の関係者と連携・調整、人材発掘・育成、会議運営・ネットワーク構築、環境醸成・場づくりなど

#### ○コーディネーターの役割（組織外人材のコーディネーター、事業推進者兼任などを想定）

事業の中核的存在、地域の現状分析、課題やニーズの把握、学習者や家族等との関係構築、関係者への専門的助言、実践のまとめ役、事業成果の分析・考察など

#### ○その他の支援者の役割（講師やボランティア、メンターなどを想定）

参加者と同じ目線で参加、学習者との関係形成、学習者間関係形成支援、学習者の声やためらいなどへの気づきなど